

令和7年度保護林モニタリング簡易調査について

簡易調査について

保護林設定管理要領に基づき、保護林モニタリング調査は5年または10年間隔で実施し、10年間隔の保護林については、国有林野施業実施計画策定作業の前年度までに、職員による簡易調査を実施することとなっている。

対象保護林

モニタリング間隔を10年と定めている21保護林のうち、令和7年度は5保護林が対象（下図参照）。

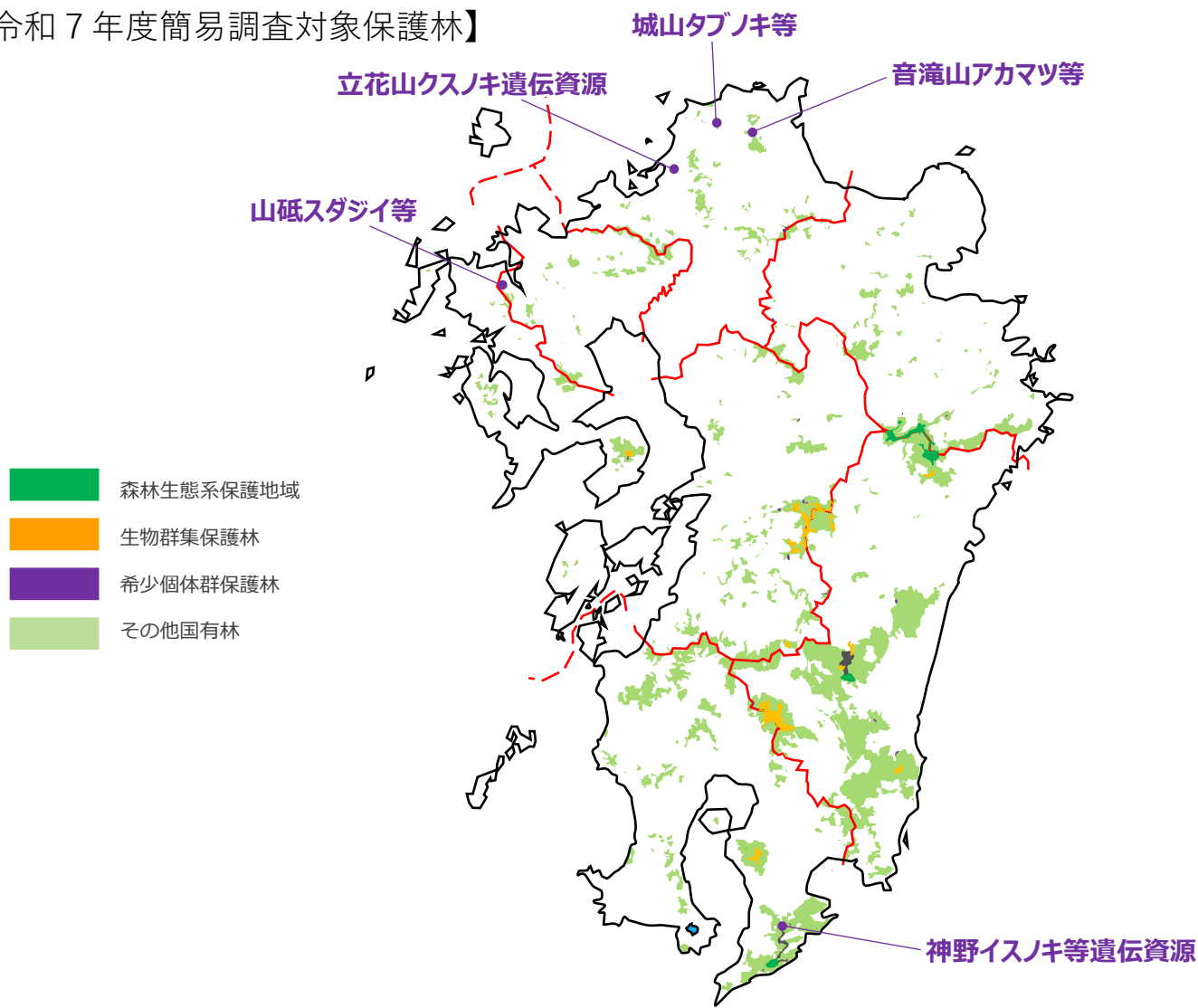
調査方法

保護林モニタリング中間現地簡易調査チェックシート（病虫害、鳥獣害、気象害、シカ被害レベル等）への記入、写真撮影（プロット直上東西南北、その他シカ被害等）、GNSSデータの記録

今後の対応

調査結果を踏まえ、必要に応じて保護林管理方針書等に反映。

【令和7年度簡易調査対象保護林】



立花山クスノキ遺伝資源 希少個体群保護林

面積：57.02 ha
福岡森林管理署

保護対象種

常緑広葉樹林を構成する種

概況

前回調査時の主な高木・亜高木は、

- ・ 30201：クスノキ、タブノキ、ヤブニッケイ
- ・ 30202：カゴノキ、タブノキ、ヤブニッケイ

今回の調査で林内の植生に
大きな変化は見られなかった。
シカ被害は特に見受けられない。



過年度調査との比較：H31.11 → R7.11

30201



30202



音滝山アカマツ等 希少個体群保護林

保護対象種

シイ類、カシ類等からなる常緑広葉樹林を構成する種

概況

前回調査時の主な高木・亜高木は、

- ・ 40201：スダジイ、カゴノキ、ヤブニッケイ
- ・ 40202：タブノキ、クスノキ、スダジイ

今回の調査で林内の植生に大きな変化は見られなかった。
シカ被害は特に見受けられない。

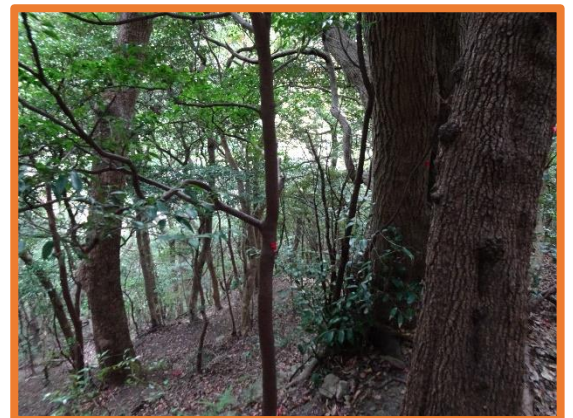


過年度調査との比較：H31.10 → R7.11

40201



40202



城山タブノキ等 希少個体群保護林

保護対象種

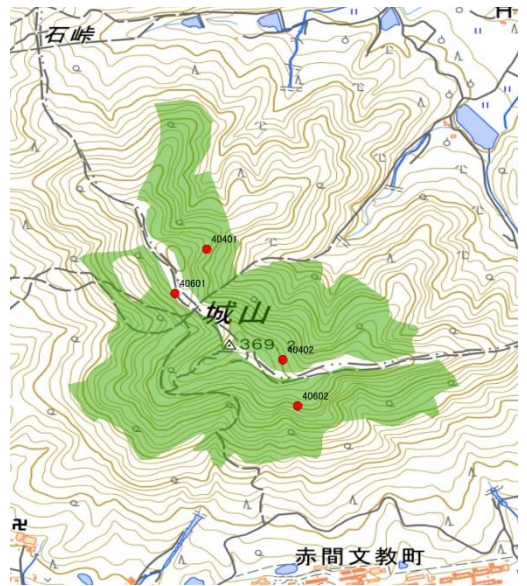
常緑広葉樹を構成する種

概況

前回調査時の主な高木・亜高木は、

- ・40401：イスノキ、タブノキ
- ・40402：タブノキ、ホソバタブ、カゴノキ

シカ被害は特に見受けられない。
 プロット40402において、ゲリラ豪雨による
 高木の倒伏や欠損が10本程度見られた。土
 石の流出は認められない。



過年度調査との比較：R2.9 → R7.11

40401



40402



被害状況

城山タブノキ等 希少個体群保護林

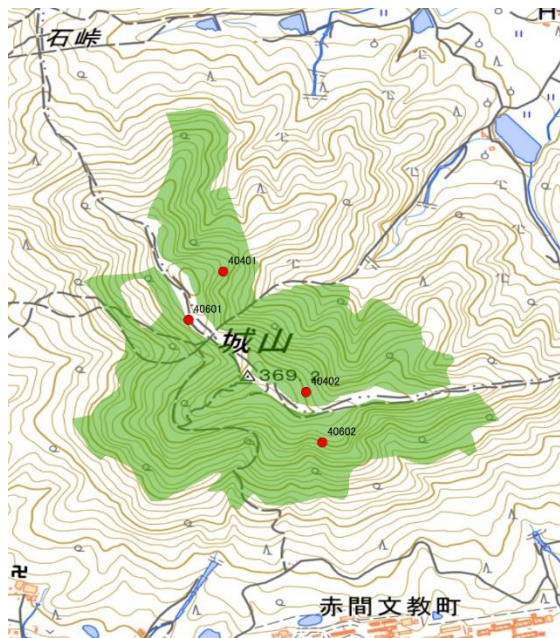
保護対象種

常緑広葉樹を構成する種

概況

前回調査時の主な高木・亜高木は、
・40601：スタジイ、ウラジロガシ
・40602：スタジイ、ウラジロガシ

今回の調査で林内の植生に
大きな変化は見られなかった。
シカ被害は特に見受けられない。



過年度調査との比較：R2.9 → R7.11

40601



40602



山砒スタジイ等 希少個体群保護林

保護対象種

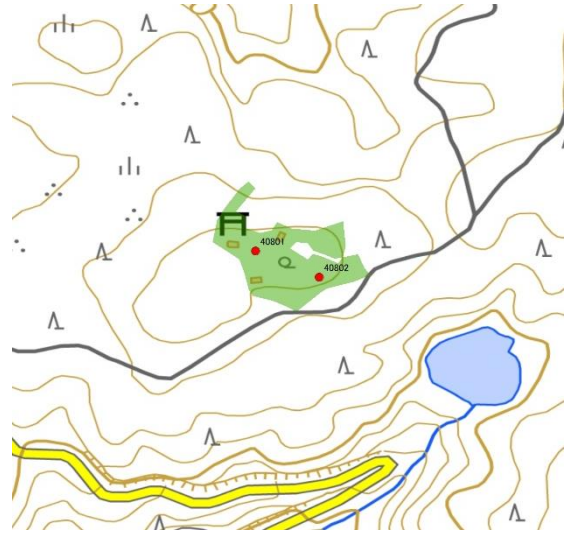
スタジイ群落を構成する種

概況

前回調査時の主な高木・亜高木は、

- ・40801：アカガシ、スタジイ、タブノキ
- ・40802：アカガシ、スタジイ、タブノキ

今回の調査で林内の植生に
大きな変化は見られなかった。
シカ被害は特に見受けられない。

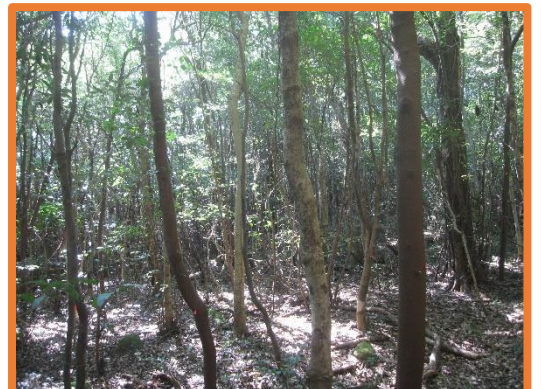


過年度調査との比較：R2.10 → R7.10

40801



40802



かみの
**神野イスノキ遺伝資源
希少個体群保護林**

【資料5-1】

面積：50.98 ha
大隅森林管理署

保護対象種

イスノキ及びイスノキ群落を構成する種

概況

- 前回調査時の主な高木・亜高木は、
- ・ 33301：イスノキ、ウラジログシ
 - ・ 33302：スダジイ、ウラジログシ、タブノキ
 - ・ 33303：タブノキ、スダジイ、イスノキ

今回の調査で林内の植生に
大きな変化は見られなかった。
シカ被害は特に見受けられない。



過年度調査との比較：R2.10 → R7.10

33301



33302



33303

